

サンデーレース大好きなOPTTとしてはこんなおもしろそうなレースを傍観的に取材するだけなんて我慢できるはずがない。フユ&ヨッチイがハチロクでエントリー、サイトー編はオレのトライアルロードスターのセカンドト

REPORT: マッキー牧原

予定では優勝  
だったのに……

以上がスーパー6H耐久バトルロイヤルの主なルールだ。予定では優勝だったのに……

# 21600秒のデスマッチ、生き残り頭脳ゲームだつた!!

回でも可、一人あたりの運転時間は規定なし。ただし、給油や作業などには10分以上の停止が義務づけられる(つまり10分以内に給油や作業を終えても、10分経つまではピットアウトできないってこと)。

ライバーとして参加しているのだ。我がトライアルチームは、ちょっとした行きがかり上、優勝しなかったら坊主にならなくてはならないハメに陥っている。(6月号「なにわのチューニングストーリー」参照)何が何でも優勝しなければならぬので大マジで参加したのだ。

今回のレースの一番のポイントになったのは、燃料給油一回につき10分の停止義務。10分といえは1分16〜17秒で周回していても8周近くできてしまう時間だ。つまり1ヒートに1回しか給油しなかったチームと2回給油したチームでは、まったく同じペースで走ったとしても7周以上もの差がついてしまうということなのだ。

1ヒートが3時間あるとはいえず、7周差を逆転することなんて不可能に近い。給油はなんとしても一回におさえたいところだ。しかし、その程度のことではどのチームも考えているはず、十分なアドバンテージを得るにはプラスαが欲しい。トライアルロードスターは、T・サーキットでテストした結果、満タンでギリギリ1時間半走りきれることがわかってきた。でも、T・サーキットよりアクセスルオンオフが多い間瀬の方が燃費は悪いはずだ。1時間半全開で走ったとしたら、多分もたない。

燃料をもたせるために回転を抑えて走るか、それともサブタンクを搭載するか、どちらかしかないわけだ。当初、我々が強敵と見ていたのはシビック(EG6)だ。もちろん他のマシンもすべてがライバルなのだが、EG6はロードスターと比べてパワーを含む動力性能において圧倒的なアドバンテージを持っている。しかし、VTECは全開で走れば1ヒートに2回給油が必要はすずだ。オレの計算では、EG6が1分13秒台でラップしたとしても2回給油が必要なら1ヒート(3時間)10800秒給油時の停止義務時間1600秒

10800秒-(600秒×2回) = 131.5周 73秒

このように、ロードスターでも燃料が1時間半もつとすれば十分EG6に勝つことができるわけだ。もし、EG6が1回の給油ですませるためにはかなり回転を抑えていたのだ……。

我がトライアルチームは、ちょっとした行きがかり上、優勝しなかったら坊主にならなくてはならないハメに陥っている。(6月号「なにわのチューニングストーリー」参照)何が何でも優勝しなければならぬので大マジで参加したのだ。

我がトライアルチームは、ちょっとした行きがかり上、優勝しなかったら坊主にならなくてはならないハメに陥っている。(6月号「なにわのチューニングストーリー」参照)何が何でも優勝しなければならぬので大マジで参加したのだ。



本物のレースカー2台を持ち込んだエンドレスワークスだったが、エンドレスミラージュC53A(山崎倫治・井口邦夫・萩原正志・重公一)は19周でリタイア。その後は同じエンドレスチームのエンドレスワEP71(滝沢志・高野志明・中野隆・青賀義典・小林修・小林主)に加わってなんと10人でドライブしましたとさ。



かつてはホンモノだったAE86(八木元・志岐貴浩・細川勝一郎・谷上義)は、グリルにガムテープでオーバーホール対策を施してスタートした。そして第1ヒート50周目、オーバーヒートでリタイア。ギャ/VVVV!



かつてはホンモノだったAE86(八木元・志岐貴浩・細川勝一郎・谷上義)は、グリルにガムテープでオーバーホール対策を施してスタートした。そして第1ヒート50周目、オーバーヒートでリタイア。ギャ/VVVV!



N2風の状態でスタート直前のパドックで注目されていたコルサアドバンは、ついにKPF61(江本隆策・小林勝一・佐藤義彦)に敗れ、11周でレースを終えてしまいました。1周当たり5000円也

第1ヒート、快調に飛ばし続けて唯一の13秒台まで叩き出したコルソが、リタイアした。2回目の給油を余儀なくされて10位大きく出遅れたTHRUST R★EG6(小林修・西原広志)だが、第2ヒートは回転を抑えてペースを落とし、4位までポジションアップ。



スターティンググリッドは抽選で決められたのだ。自他世界最強のワグンを誇るOPTT2チームのヨッチイが引き当てたのは14番グリッド。ここが世界最強なんだよノ……(注)



ベストラップ1分24秒1177でも11位に入ってしまった。悔しい走り続けてほしいボクシヨシヨシに入れることを証明してくれだケルPトッピンくんKPF61(佐久間智樹・志岐貴浩)だ。でも、レースではペースを落とし続けるのがおぼつかしいんだよ。

(COLUSスーパー6H耐久バトルロイヤル)

順位	車番	エントリー名	トップ速	ベストタイム
1	28	クラフトレーシングAE86		1'14.125(178/267)
2	31	ブレーン&なめたけ車道EF3	2 Laps	1'14.324(179/265)
3	38	アベックスロードスターTRIAL	4 Laps	1'15.273(262/263)
4	45	THRUST★R EG6	14 Laps	1'13.887( 16/253)
5	35	いつもよりもっと速いEP70	16 Laps	1'19.010( 20/251)
6	32	RSスガノ三改EG6	16 Laps	1'15.993(139/251)
7	25	RSスガノAE86	19 Laps	1'15.065(109/249)
8	33	出光RSスガノEG6	21 Laps	1'14.840(133/246)
9	24	スピニングアウト倶楽部AE86	22 Laps	1'16.812( 61/245)
10	27	ずっとびのたつAE86	24 Laps	1'17.038( 44/243)
11	38	グループPトッピンくんKPF61	35 Laps	1'24.117(186/232)
12	41	グログロかわつちDA8	40 Laps	1'15.348( 40/227)
13	22	かわつちFR四天王AE86	42 Laps	1'16.290( 87/225)
14	36	エンドレスワEP71	47 Laps	1'14.147(219/220)
15	34	トラディショナルEP71	51 Laps	1'16.737(136/216)
16	26	クラフトレーシングAE86	57 Laps	1'14.549( 6/210)
17	43	お食事処もりや・改II	65 Laps	1'16.284( 93/182)
以上完走				
30		アラセウツワークEF3	63 Laps	1'14.689( 3/204)
42		佐藤隆1チーム	128 Laps	1'16.692( 8/139)
29		西田寮パワーズEAT	163 Laps	1'17.038( 93/104)
23		RESPONSE AE86	170 Laps	1'16.210( 88/ 97)
44		かつてはモノホンだったAE86	210 Laps	1'16.993( 28/ 57)
21		HeartBeatAE86	243 Laps	1'16.214( 19/ 24)
40		エンドレスミラージュC53A	248 Laps	1'14.901( 13/ 19)
37		コルサアドバンはつたりKPF61	256 Laps	1'19.682( 4/ 11)

(ロードスターの場合)  
●平均ラップタイム1分17秒と仮定  
10800秒-600秒 = 132.4周 77秒

我がトライアルチームは、ちょっとした行きがかり上、優勝しなかったら坊主にならなくてはならないハメに陥っている。(6月号「なにわのチューニングストーリー」参照)何が何でも優勝しなければならぬので大マジで参加したのだ。



マッキー牧原、斎藤政夫はどのようにスポーツ刈りになりました。「なんだ、それじゃあ長さすぎるぞ! もっと短くしろつ」などという苦情は一切受け付けません。